

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 自他を大切にし、個性を認め合うことのできる生徒の育成

本校は、一人一人の個性を認め、互いの人権を守り、誰もが人間らしく生きられる社会を築いていこうとする態度の育成に取り組んできた。この2年間を通し、生徒は親和的な態度で過ごすことができている。学校生活を送る中でクラスメイトや教師と打ち解け合い、多くの生徒が自分らしさを学級で出せるようになってきた。また、遠慮しがちであった自分の思いも、積極的に述べることができる生徒が増えている。また様々な学校行事を通して、仲間と協力し合いながら練習や準備を行う中で、さらに互いを認め合うことができ、集団としての連帯が強くなるなど、多くの生徒が学級のまとまりを実感することができた。

《平成30・31年度学校評価（生徒）より》（平成30年度→平成31年度）

「ルールを守って生活するなど自他の生命を大切にしている。」（95%→95%）

「学校を楽しいと感じ、生き生きと生活している。」（93%→96%）

《平成30年・31年度自尊感情アンケートより》（平成30年度→平成31年度）

「周りの友達と仲よくやっている。」（97%→97%）

《平成31年度全国学力・学習状況調査より》

「自分には、よいところがあると思いますか。」（本校34.0% 県平均27.1% 全国平均29.0%）

平成30年度から平成31年度の学校評価、自尊感情アンケートの項目からは大きな変化はないが、他者との関係が良好であることが読み取れる。また全国学力・学習状況調査では自分のよさを認めることのできる生徒の割合が、県平均・全国平均を上回っている。

(2) 人権感覚を磨き、あきらめずに粘り強く取り組もうとする態度や行動の育成

人権学習について、自分の周りにある人権課題について真剣に考えようとする生徒が多くなっている。個性やちがいを認め合うことが、すべての人が幸せに生活することにつながると気付くことができ、誰もが自分らしく生きられる社会づくりのために、互いを大切にし、支え合うことが必要であることを理解できつつある。困難にぶつかったときに、あきらめずにやり遂げる力は、差別に打ち勝つことができる力につながる。生徒は様々な成功体験を通して、自信を付けており、そのことが次の挑戦への意欲になっていると考えられる。人権学習で学んだことが行動化・態度化につながるまでにはまだまだ課題はあるが、積極的な発言が授業中に見られたり、困っている友達がいたら助けるなど、以前よりも主体的に行動できる場面が増えてきている。

《平成30・31年度学校評価（生徒）より》（平成30年度→平成31年度）

「学校・学級をよくしていこうとの思いをもち、委員会活動（係活動）に積極的に取り組んでいる。」（69%→70%）

「各学年の行事に積極的に参加している。」（80%→81%）

「道徳科や学級活動の時間に、人間の生き方について考えたり、温かい仲間づくりに取り組んでいる。」（86%→88%）

「清掃活動・奉仕活動などに友達と協力し、生活しやすい環境づくりに取り組んでいる。」

(87%→87%)

《平成31年度全国学力・学習状況調査より》

「学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。」

(本校59.5% 県平均40.4% 全国平均45.4%)

「人が困っているときは、進んで助けていますか。」

(本校45.1% 県平均27.4% 全国平均34.6%)

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」

(本校84.3% 県平均79.0% 全国平均78.3%)

「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。」

(本校30.1% 県平均18.9% 全国平均22.5%)

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」

(本校86.9% 県平均75.5% 全国平均75.6%)

学校評価からは7割から8割の生徒が他の人と協力しながら、活動に取り組むことができていることが分かる。全国学力・学習調査からは、挑戦することの喜びを感じたり、粘り強く取り組む生徒の割合が県平均や全国平均よりも高い。

【生徒の感想】(人権教育講演会より)

- ・私は人権に興味があります。人権意識をもっと高めていけるよう、自分自身でも努めていきたいと感じました。
- ・今日聞いた話を家族や他の友達に話して、偏見や差別を減らしていきたいです。
- ・将来、人権問題に直面したとき、しっかりと自分の意志をもち、立ち向かっていきたい。
- ・まずは自分が差別をしないこと。偏見をもたないこと。そこから始めていくことにしようと思う。

(3) 人権教育推進体制の整備と研修の機会の増加

教師間で日々情報交換しながら、指導内容や指導方法の改善に努める姿が多く見られるようになってきた。性的マイノリティについての研修では、若い教員の新しい価値観を学ぶこともでき、相互に研修する機会となると同時に、次年度に向けた生徒の学びの足並みをそろえる機会ともなった。

校区の小学校の人権教育主事と管理職が本校に集まり、授業についての情報交換を行っている。小学校で扱う人権課題の確認を行うことで、共通理解のもと、新1年生の人権学習がいい形でスタートを切れるようにしている。研修の機会が増えることや人権教育の推進体制が整備されたことにより、教職員の人権意識が向上し、授業力も向上してきた。

(4) 「知」の総合化ノート(和ファイル)の活用と効果

新たな試みとして取り組んだ「知」の総合化ノート(和ファイル)については、まだまだ研究の余地があるが、生徒が学習を振り返るとともに、思考を広げる手法として効果があった。以下は活用方法と生徒の感想である。

授業においての気付きや学びが、普段の生活につながり豊かになっていくことを願って、私たちは授業を行っている。そして、学ぶことで生活が豊かになるためには、心の通った関わりを日々続けていく「積み重ね」が重要であると、常々考えてきた。だから、授業では考えや思いを発

そこで、それぞれの授業での「学び」の成果を、総合的な学習の時間等を活用して振り返り、生徒一人一人が各授業での「学び」の内容を再構築させることを試みた。つまり、授業での感想を読み返し、その中で改めて大切だと感じることを、未来の自分に残しておきたいことの視点で、名刺大の大きさの紙「学びカード」（図 2）に整理させた。

[illegible]

(図2) 学びカード

A 10x10 grid of squares. A 3x3 subgrid is highlighted in the center, with a thicker border. The highlighted subgrid is located in the middle of the grid, spanning from the 4th to the 6th column and the 4th to the 6th row (assuming the top-left square is at row 1, column 1).

【(図3) マンダラチャート】

【(図1) ワークシート】



(図 4)



(図 5)

それぞれの「見出しページ」を作る！



(図 7)

それぞれの「学びカード」を
各「見出しページ」を貼っていこう！



(図 6)

【生徒の感想】

- ・「和」ファイルは、とてもためになる。なぜなら、私たちは将来、社会へと出て行く。そのためのために、身に付けなくてはならない力は数え切れないほどあるだろう。このノートの見出し作りを一緒にしながら、私にとってもみんなにとってもためになるノートにしたいと思った。もし、この授業がなかったら、社会へ出るための準備も不十分で、きっと混乱してしまうだろうと思った。
- ・自分のできていないことや、理想の自分に近付けるような課題を見付けられたし、だからもっとこうしようと思うことができた。「和」ファイルを大事にしたいと思う。
- ・とても役に立つファイルだ。勉強する必要性が分かったから。
- ・自分に身に付けたいと思う力が湧いてきた。これからどんなことをしたらいいのか、どうつなげていけばいいのか、考えたいと思う。

(図 8)

2 今後の課題

(1) 生徒の活躍の場や体験の機会の増加

様々な場面で積極的に関わろうとする場面が増えてきてはいるが、行動化・態度化につなげるまでには、今後も継続した取組が必要である。生徒一人一人の活躍の場を設定し、成功体験を数多く積むことにより、自尊感情が高まると考えられる。互いを認める雰囲気はできつつある。失敗を恐れることなく、挑戦する姿勢を教職員や周りの仲間が後押しすることで、一歩前進できると考えられる。

平成30・31年度に全校生徒に行った自尊感情アンケートでは「自分のことが好きだ。」という項目に対し「そう思う」という割合がともに67%にとどまり、否定的な回答が3割を超えている。その時の生徒の状況や心理面によって変動があるが、まだまだ自尊感情を高めていくことが必要である。生徒の状況をしっかりと把握し、学年団を中心とした情報交換などで生徒理解に努めていかなければいけない。また教室に入りづらい生徒や不登校の生徒についての個別支援についても、教職員、家庭、関係機関との連携を密に図りながら支援していく必要がある。

人権教育講演会や体験学習を通じて、他者の思いを受け止め、自分の生き方を見つめ直すことができた。生活経験が少ない中学生にとって、貴重な経験になったはずである。今後も3年間で同和問題をはじめ様々な個別人権課題を系統立てて学習していくとともに、差別解消に向けて行動しようとする実践力を身に付けていく必要がある。

(2) 教職員研修の充実と連携の拡大

生徒の人権感覚を磨くためには、まずは教職員が研修を積む必要がある。この2年間で数多くの授業実践がなされたことにより、授業におけるスキルだけでなく、授業者自身の人権感覚も鋭くなった。この実践を生かすためにも、今後も継続した取組が必要であるとする。

地域の小学校、高等学校との情報交換を行う機会をもつことができているが、これからも拡大していかなければならない。人権教育が連続することを見据えて、小中高と系統立てた指導が行える環境を整えられるようにしているところである。

また家庭や地域を巻き込んだ人権教育の啓発を広げていくことが重要である。人権学習について家庭で話をしたという生徒の意見もあるが、人権意見発表会や人権教育講演会への参加者が少ないという現状がある。生徒の人権教育に対する関心が高まっているだけに、この機会を生かしながら、今後も情報発信を積極的に行っていく。

(3) 「知」の総合化ノート（和ファイル）の今後の活用方法について

自分の考えを「学びカード」に記述するまではスムーズに進んだが、次の段階である「自分が身に付けたい力」を設定し、整理するまでに時間がかかったこともあった。初めて授業に取り入れる教員の中には戸惑いもある。研修の中で活用方法について、まとめたものを今後学級だけでなく、学年や学校全体で活用方法の在り方について検討し、共通理解を図っていかなければならない。